



現場から（最近のニュースから）

根源的变化



8月は夏休みをとる人が多いでしょう。ずっと一生懸命にがんばってきたのを、少しストップする良い時になるかもしれません。あきらめずに、がんばる人は、ほんとうにすばらしいです。しかし、あきらめずに、一生懸命にがんばり続けることは、ほんとうに良いことなのでしょうか。がんばってプロ野球選手になったのに、結局は芽が出ないまま引退し、その後、ビジネスの世界で成功を収めた高森勇旗さんの本を紹介している記事がありました。

人は「一生懸命にがんばる姿」を評価するので、とにかくがんばろうとしてしまいます。しかし、どんなに一生懸命にしても結果が出ないのは何かの間違ったところからで、その何かをつきとめないことには、実を結ばないのです。そこで、高森さんは、著書の『降伏論「できない自分」を受け入れる』（日経BP刊）で、いい結果を出すには、自分自身を「いい結果を出せる状態」にしなければならないと言われているそうです。いい結果を出せる状態とは、自分の中に「未完了」がない状態のことだということです。ちょっとした喧嘩が残っていたり、だれかからの誘いに答えていなかったり…ちょっとした心の引っかかりが、心の中のしこりとなって、人からエネルギーや集中力を奪うということです。その心の引っかかりを減らすことで、「いい結果を出せる状態」になるということです。

それだけではなく、いい結果が出ないのは、「いい結果が出ない意思決定」を積み重ねて来たからだとすることに気づくべきだということです。つまり、「いい結果を作れない自分」がいるから、それを変えるために自分の意思決定の基準を見直しなさいと言われる。しかし、自分の意思決定の基準を変えることは、とても難しいので、わざと強制的に自分でしなければならないということです。たとえば、2つの選択肢があるとき、絶対に自分は選択しないほうを選んでみたりする、人からのアドバイスを採り入れてみるなどをして、意思決定を検討してみることによって自分の価値観を見直すことができるということです。（7月10日新刊JP<「一生懸命だけど結果が出ない人」が知るべき自分の変え方>より）

なにか気になることがあると、心ここにあらずの状態になるので、がんばっているつもりでも、ほんとうには集中できず、なんにも進まないで「できない自分」だけが残るでしょう。また、自分が良いと思うことだけにこだわっていると、更新することができず、どんどん変わっていく世の中で、波に乗れず取り残されるようになります。どんなに本人は一生懸命でも、空回りするしかないのでしょうか。そのとおりなのですが、集中しようとしても、更新しようとしても、どうしたら良いのか分からないのではないのでしょうか。それは、根源的なことがまったく同じままで、うわべだけを変えようとしているからです。根源的な部分から変えることができるなら、集中することもでき、意思決定の基準も自然に変わります。休暇をとってからだを休めるだけではなく、根源的なことを変えて方向転換して、すべてを新しく出発してみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぼっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からのいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください